

ペット関連業界の労働市場

—若者の人気職業の実態と第3次新興産業の労働世界—

荒川葉（お茶の水女子大学）

1. 問題設定

「ペット関連業界」は、現在、成長が甚だしい新興産業の一つであると同時に、筆者のこれまでの研究で若者の「人気職業」として上位にあげられた職業であった。この職業にあこがれた、若者が、今後、この領域の職業に参入していくことは、容易に想像がつく。

しかし、こうした新興産業の労働条件、職場への参入、昇進、給料体系、OJTの在り方については、ほとんど実態が解明されていない。あこがれのみが先行し、実情を知らない若者に、情報を提供し、キャリア形成の一助にすることが、本研究の一つの目的である。

それと同時に、この研究には、もう一つの重要な意義がある。第3次新興産業の実態については、これまでほとんど解明されてこなかった。日本型雇用慣行の変容については、「雇用崩壊」や「フリーター、ニートの増加」など、目に付きやすい事象ばかりに焦点を当てた研究が蓄積されてきた。しかし、もう一つ重要な変化である主要産業の変化（第3次産業への移行—なかでも、サービス系新興産業の比重の増加とそれによる労働市場の変容）については、ほとんど研究が蓄積されてきていない。介護福祉士など、ごく一部の職業については研究があるものの、介護福祉士の研究も労働市場研究への寄与と言うよりは、福祉政策への提言という問題関心が強い側面があった。

第3次産業が主要な産業としての比重を占めるようになったとき、これまで日本的雇用慣行の特質として語られてきた、労働市場理論は、どのような再考を迫られるのか。労働市場における参入、昇進、OJTの既成概念は、どのような再考を迫られるのか。こうした角度から、これまでの労働市場論に新しい議論を投げかけると共に、これからの若者の職業環境について、考察することを目的に、研究を進めていきたい。

なお、今回の発表では、ペット関連業界でも、とりわけ若者に人気の高かった、「トリマー」に焦点を当てた研究を行う。

2. 調査の概要

2008年6月2日～2008年7月18日までの間に、首都圏A県で、トリマー50人を対象にインタビュー調査を実施した。

3. 分析

1) 年齢

まず、年齢について、次頁、表1にその分布を掲載した。年齢については、中学を卒業してすぐ専門学校に行った人は50人中2人のみで、基本的に高校卒業→専門学校→実務経験数年という人が多かったため、全員21歳以上となっている。もっとも多かったのは、26～30歳となっている。

2) 入職前の技能の獲得の場所

次頁、表2に掲載したとおり、50人中、44人が専門学校において、専門的な技能を獲得していた。専門学校がトリマー養成のメインルートとなっていることが解る。

3) どのように、就職したのか？

次頁、表3に掲載したとおり、どのように就職したかについては、かなりばらつきがある。専門学校に来た求人募集で就職したものは、必ずしも多くはなく、意外に多かったのは、インターネットの求人サイトを見てというものと、直接店の張り紙を見て、というものが多かったことである。専門学校は、技能形成の場としては成立しているものの、職業斡旋機関としては機能していないことがうかがえる。

4) OJTの在り方

次頁、表4に掲載したとおり、何年目でどのような仕事を任せてもらえるかについては、ばらつきが見られた。最初から、カットを、任せてもらえるところと、最初は、シャンプー・爪切り・足の裏の毛のカットなど補助的業務から入るところと、半々に分かれた。もっとも、掃除・後片付け

は少なく、50人中6人とどまった。

5) 給料

給料は概して少ない。勤め始めた段階と、現在もらっている給料の額を聞き取り、示したものが、表5と表6である。勤め始めた段階で、7万~10万の者がもっとも多く、全体の3分の1以上をであった。さらに、現在の給料についても、15万~18万のカテゴリのものが全体の3分の1をしめていた。これは、当日は、さらに詳しく検討するが、これらのトリマーのうち、約3分の1のものが、アルバイトの待遇で採用されていることとも関連している。なお、一人暮らしをしているものは、自宅経営のオーナーをのぞいては、50人中2人しかおらず、その2人も、家賃は親から出してもらっているとのことであった。それ以外のものは自宅から通っているか、結婚して夫の収入に頼っているかのいずれかであり、特に

男性の場合、収入が少ないため、親元から通うしかなく、結婚できないとの意見も聞かれた。

6) 出身階層との関わり

出身階層との関わりでは、少なくとも父職、母職ともに専門・管理職業職業従事者は少なかった。特に父職では、自営商工業のものが多く、必ずしも高い階層のものは多くない傾向がうかがえた。

4. 結論

若者に、今、大変人気のあるトリマーの職業であるが、実際にアルバイトではない正規職業従事者として働くものは少なく、収入も少なく、経済的自立が困難であるという傾向が顕著に見られた。これがトリマーに限らず、第3次新興産業一般に見られる傾向であるとすれば、若者の参入する職業条件は厳しいものであるといわざるを得ない。

表1 年齢

1. 16歳未満	2. 16~20歳	3. 21~25歳	4. 26~30歳	5. 31~35歳	6. 36~40歳	7. 41以上	計
		4	18	2	14	10	2
							50

表2 入職前の技能の獲得

1. 専門学校	2. ペットサロン	3. その他	計
44	4	2	50

表3 どのように、就職したのか?

1. 専門学校及びその他の学校機関に求人があった	2. 就職情報誌	3. 職業紹介所(ハローワーク等)	4. 知り合いの紹介	5. 持ち店舗	6. インターネットの求人サイト	7. 張り紙	計
8	6	2	6	10	8	10	50

表4 OJTの在り方(何年目で、どのような仕事を任されるのか?)

1. 最初から、カットまで任せてもらえる	2. 最初はシャンプー、爪切り、足の裏の毛切りなど	3. 最初は、掃除・後片付けなどのみ	計
20	18	6	44

表5 お給料は、勤め始めた頃、どのぐらいもらっていましたか?

1. 6万円以下	2. 7万~10万円	3. 11万~14万円	4. 15万円~18万円	5. 19万~22万円	6. 23万円以上	計
14	18	4	2	0	4	42

表6 お給料は、現在、どのぐらいもらっていますか?

1. 6万円以下	2. 7万~10万円	3. 11万~14万円	4. 15万円~18万円	5. 19万~22万円	6. 23万円以上	計
10	6	9	14	0	3	42

表7 父親の職業

1. 専門的な仕事	2. 管理的な仕事	3. 事務的な仕事	4. 販売関係の仕事	5. 農林漁業	6. 自営商工業	計	
2	4	6	0	0	12	24	
7. 運輸・通信の仕事	8. 職人的仕事	9. 設計や工程管理を行う技術職	10. サービス関係の仕事	11. 工員や技能職	12. 主夫	13. その他	計
4	2	0	2	2	0	8	18

表8 母親の職業

1. 専門的な仕事	2. 管理的な仕事	3. 事務的な仕事	4. 販売関係の仕事	5. 農林漁業	6. 自営商工業	計	
6	0	4	4	0	2	16	
7. 運輸・通信の仕事	8. 職人的仕事	9. 設計や工程管理を行う技術職	10. サービス関係の仕事	11. 工員や技能職	12. 主婦	13. その他	計
0	0	0	4	0	16	20	40